

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	奨学金貸与事業	会計	一般会計	事業No.	708	施策順No.	23-001
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-1-2-11-1		
政策	2 地育力によるこころ豊かな名づくり			課等名	学校教育課		
施策	23 高等教育の充実			事業期間	開始	S37	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	経済的理由による修学困難者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		奨学金制度利用申請者数(人)	60	57	53	58	53	
	意図	教育の機会均等を図ることで、こころ豊かな人づくりに資する						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	飯田市(市内民間育英会を含む)の奨学金制度適用者数(人)	51	47	51	50	50	51	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	制度の周知に努力した結果、申請者数は定員を上回った。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<参考>細々目名:奨学金貸与事業費 1 経済的理由によって高等教育機関(大学院、大学、専修学校、高校)における修学困難者への奨学金貸与 (1) 毎年4月に募集し、5月頃に飯田市奨学金貸与審査委員会を開催し貸与者を決定 (2) 民間の寄附により設立された3つの育英会に対し、飯田市奨学金出願者の中から貸与対象者を斡旋 2 平成19年度から貸与月額を3万円に引き上げ(大学生等) 3 平成20年4月以降に償還を開始した者に対し、期間中に再度飯田市へ居住した場合は償還すべき債務の一部償還免除を導入 4 民間3育英会についても飯田市と同様に適用		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 経済的理由による修学困難者への奨学金貸与 (1) 大学生等(大学院含む)は月額3万円、高校生は月額1万円 (2) 平成20年度から大学院生も貸与対象 2 民間3育英会と協調した奨学金制度の推進	飯田市奨学金申請者 大学生等 高校生 決定貸与者(実績) 大学生等 高校生	58人 0人 50人 0人
23年度実施計画	1 経済的理由による修学困難者への奨学金貸与 (1) 大学生等(大学院含む)は月額3万円、高校生は月額1万円 (2) 平成20年度から大学院生も貸与対象 2 民間3育英会と協調した奨学金制度の推進 3 平成22年度から公立高校の授業料無償化が実施されるも補助教材費等は必要 4 高校はすべての教材等が完全無償化となっていないため3人分枠を確保	飯田市奨学金申請者 大学生等 高校生 決定貸与者(実績) 大学生等 高校生	52人 1人 50人(上限) 1人

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金				特定財源内訳、補足事項 (注)奨学金貸付寄附金6,000千円 奨学金貸付金回収金7,975千円	
		県支出金					
		起債					
		その他	14,186	13,975	14,220		
		一般財源	18,800	15,504	21,563		
	計(A)	32,986	29,479	35,783			
	正規職員所要時間						
	臨時職員等所要時間						
	人件費計(B)		0				
	トータルコスト A+B		29,479				

4 事業に対する市民や議会の意見

制度のPRを図り一層の利用者増を図る
--------------------

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	高等教育機関等(大学院、大学、短大、専修学校、高等学校など)において修学の機会が得られる。	施策の成果指標又はムトス指標	市で奨学金を貸与している高校生及び大学生などの数
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・平成19年度から大学生等への貸与額を月額2万円から3万円に引き上げたことで、申請者の学費負担の軽減につながった。これにより修学の機会確保の充実が図られた。		
	後期に向けた課題	・奨学金貸与の条件面について、柔軟な対応が可能となるよう検討する時期である。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・「広報いいだ」への情報掲載を複数回行ったり、飯田市ホームページへも情報をアップし、申請者にとって利用しやすい環境を確保した。		
	後期に向けた課題	・償還時の連帯保証人についての条件を検討する必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・従前は申請書等を事務局及び任意の自治振興センターに備えていたが、情報通信網を利用したサービスの構築を検討するに至った。 ・平成23年度の募集から飯田市ホームページによる書類のダウンロードが可能となった。		
	後期に向けた課題	・受益者負担の原則を尊重していく。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・申請者の負担は適切であった。		
	後期に向けた課題	・特になし。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①主体は修学を希望する学生であり、奨学金により修学が可能となった。 ②学生自身が奨学金制度を正しく認識するよう定期的に本人へ通知している。		
	後期に向けた課題	・特になし。		
全体を通じて	4年間の振り返り	・社会経済状況の低迷による家庭の収入減、行政からの制度周知などによって申請者数が増加し、これに伴う業務量が増加している。		
	後期に向けた課題	・特になし。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------